

➤ 16日 火曜

列王Ⅱ



いた間も、人々は彼女の横暴や不信仰に嫌気がさしていると思われます。神に従わない者の末路はこのようなものです。自分の力に終りがあることを悟ることができず、それゆえ悔い改めることもできず、みじめな結果となるのです。

私たちはその逆で、主のことばに聞いて自分の足りなさや罪に気づき、常に悔い改め、人々を生かし、主の祝福をいただくものです。人々はそのような者に主の恵を見出し、主のもとに一致するという喜びが与えられるでしょう。

これまではアタルヤが権力をふるっていたので、誰も彼女を批判することができず、神に従う者がいないかのような社会でしたが、一たび主のみわざが起これば、「民衆」がその信仰を表すのです。主の群れには主に従う者が必ずいるのだと、信じて励ましを受けましょう。その点で勇気を持ちましょう。

11:13 アタルヤは近衛兵と民の声を聞いて、【主】の宮の民のところに行った。

11:14 彼女が見ると、なんと、王が定めのおりに柱のそばに立っていた。王の傍らに隊長たちやラッパ奏者たちがいて、民衆がみな喜んでラッパを吹き鳴らしていた。アタルヤは自分の衣を引き裂き、「謀反だ、謀反だ」と叫んだ。

11:15 祭司エホヤダは、部隊を委ねられた百人隊の長たちに命じた。「この女を列の間から連れ出せ。この女に従って来る者は剣で殺せ。」祭司が「この女は【主】の宮で殺されてはならない」と言ったからである。

11:16 彼らは彼女を取り押さえた。彼女が馬の出入り口を通過して王宮に着くと、彼女はそこで殺された。

11:17 エホヤダは、【主】と、王および民との間で、彼らが【主】の民となるという契約を結ばせ、王と民との間でも契約を結ばせた。

11:18 民衆はみなバアルの神殿に行って、それを打ち壊した。彼らはその祭壇と像を徹底的に打ち砕き、バアルの祭司マタンを祭壇の前で殺した。祭司エホヤダは【主】の宮に管理人を置いた。

11:19 彼は百人隊の長たち、カリ人、近衛兵たちと民衆すべてを率いた。彼らは王を【主】の宮から連れて下り、近衛兵の門を通過して王宮に入った。王は王の座に着いた。

11:20 民衆はみな喜んだ。アタルヤは王宮で剣で殺され、この町は平穏となった。

11:21 ヨアシュは七歳で王となった。

「民衆がみな喜んでラッパを吹き鳴らしていた。」とありますから、アタルヤが権力をふるって

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

